A 83　調理済み食品（そう菜）の消費に関する実態調査

昭和女大短大　○久我冒子　梶本明江　長谷川恵子　比護和子
昭和女大家政　杉田浩一

目的　市販調理済み食品（そう菜）が著しい伸びを示し、食生活にも多大な影響を及ぼしていると思われるが、その消費の実情は明らかではない。そこで、これらのそう菜の消費実態を把握し、意識を知るために調査を行った。

方法　昭和58年7～10月、家庭の主婦（おもに中年層）および一人暮らしの人々（おもに若年層，学生を含む）を対象に質問用紙を配布し、有効回答数1800部について、そう菜の利用状況，利用頻度に影響する因子，そう菜に対する意識などを集計した。

結果　〔利用状況〕：主婦，一人暮らしともに週1～2回，月1～2回利用する人が多く、一人暮らし，非専業主婦（職業をもつ主婦，パートを含む），専業主婦の順に利用頻度は高い。利用時間は、専業主婦は昼食に、非専業主婦と一人暮らしは夕食に多く利用する傾向にあった。利用の仕方は、各グループともそう菜以外に自分の作った料理を組み合わせる人が70％近くを占めるが、一人暮らしの人の約20％がそう菜だけですませると回答した。〔利用頻度に影響する因子〕：夕食にかける調理時間，料理への関心度などが影響し、夕食の調理時間が長いほど、また料理好きな人ほど利用頻度が低くなる傾向を示した。〔意識〕：食生活の重点として、栄養面，おいしさをあげる人が多い。そう菜を利用する理由については、簡便性，合理性，経済性が高率を占め、とくに一人暮らしの人に顕著にみられた。一方利用しない人の理由としては、共通して味や安全性への不安・不満が多かった。またそう菜について知りたい情報として、各グループとも衛生，安全性に関する事項をあげていた。したがって今後のそう菜への要望も、衛生面，安全面に集中した結果となった。